

# 太平洋クロマグロ加入量モニタリング 速報(2014年9月末)

独立行政法人水産総合研究センター  
国際水産資源研究所

- 太平洋南(※1)及び九州西(※2)において設定した曳縄モニタリング船の、7～8月(南西諸島海域で生まれたものと推定)における漁獲状況をもとに分析。
- 太平洋南における2014年のCPUE(漁獲努力量当たり漁獲量)は、2013年の40%、2012年の71%。
- 九州西における2014年CPUEは、2013年の20%、2012年の35%。
- 2011～2012年の加入量水準は歴史的な平均値より低く、2012年は過去61年で下位8位の低加入と評価されている。太平洋南と九州西における曳縄モニタリング船の2014年のCPUEは、2012年よりも低い。

(※1)太平洋南は、宮崎、高知、和歌山、三重(高知以外は2014年から調査開始)

(※2)九州西は、長崎

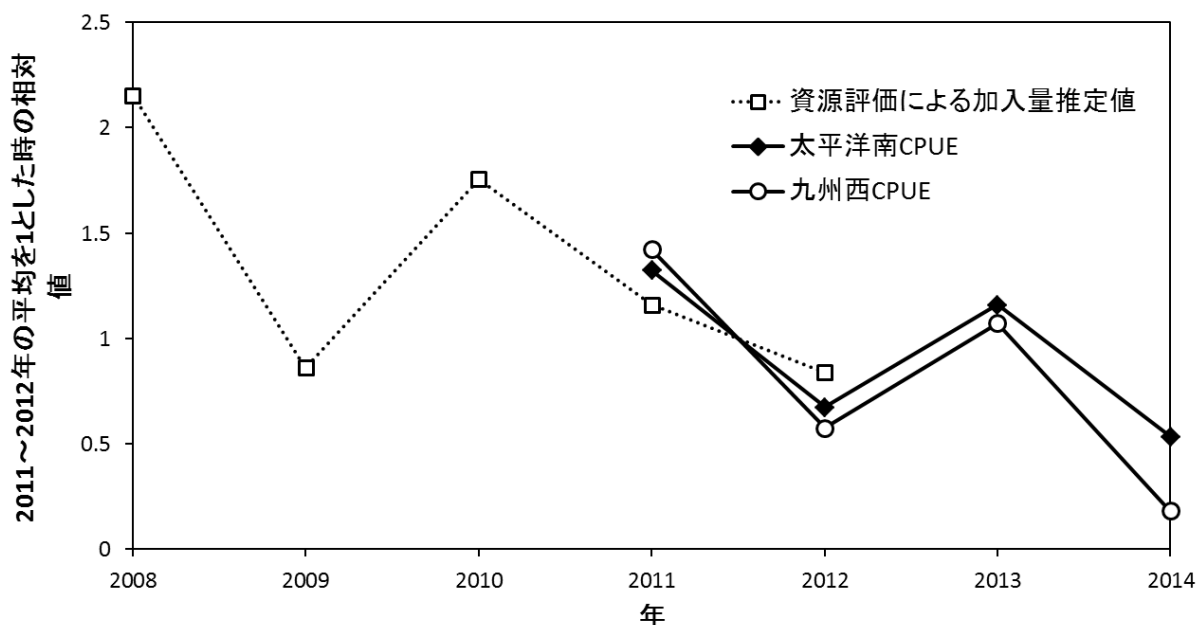


図 CPUEと加入量の相対値

- これらの結果から、2014年の南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった2012年を下回る可能性が高い。
- 今後、日本海生まれ(6月以降)についてのモニタリングデータも追加する。
- 次回の速報は、12月末に公表の予定。